

術後化学療法を受けた子宮体癌における新たな予後因子の検討 について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

子宮体がんにおいて、様々な予後を規定する因子が報告されています。近年子宮体がんの予後不良因子として治療前の BMI、血清アルブミン値、白血球数値、ヘモグロビン値、血小板数値、NLR(好中球数/リンパ球数比)が注目され、従来の病理学的因子より新たな予後因子として重要との報告もあります。しかし、単施設や少数例の報告であり、更には子宮体がんの術後化学療法症例で検討したものはありません。今回 JGOG2043 の症例を用いて新規因子を検討する事で、子宮体がんに対する新たな予後因子を抽出し、また今後の実地臨床に有効な分類や臨床試験の新しい層別化因子を探索する事を目的としてこの試験を計画しました。

【対象】

JGOG2043 試験（子宮体がん再発高危険群に対する術後化学療法としての AP (Doxorubicin+Cisplatin)療法、DP (Docetaxel+Cisplatin)療法、TC (Paclitaxel+Carboplatin)療法のランダム化第Ⅲ相試験）に文書にて同意され、参加された方。

なお、JGOG2043 試験に参加されたものの化学療法が一度も行われなかった方、追跡不能等で十分な診療情報が得られない方は除きます。

【調査項目】

すでに JGOG2043 試験の際に収集された患者さんの診療情報を用います。診療情報は、検査結果（治療前の BMI、血清アルブミン値、白血球数値、ヘモグロビン値、血小板数値、NLR(好中球数/リンパ球数比)）などが含まれます。これらを用いて、子宮体がんに対する新たな予後因子について検討いたします。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【研究期間】

承認日から 2025 年 12 月 31 日（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究機関・組織】

特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構子宮体がん委員会および JGOG2043 試験症例登録施設。

【研究代表者・研究事務局】

西尾 真

久留米大学医学部 産科婦人学教室

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67 番地

TEL : 0942-31-7573 / FAX : 0942-35-0238

【当院の研究責任者】

吉岡 恵美 / 伊藤 公彦

関西労災病院 産婦人科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69

TEL: 06-6416-1221（代表）

FAX: 06-6419-1870（代表）